

令和3年度境港市総合教育会議
会議録

令和3年11月29日

機会があっても良いと思います。帰ってから自分でやってみると
というようなプログラムができると良いのですが。

渡邊委員

境港ならではの活動ができると良いですね。

伊達市長

給食の際に動画を見たり、おさかなカードを配ったりという活
動もしています。

松本教育長

校長時代に境総合高校の生徒に来ていただいて、中学1年生全
員が鰯を捌くという体験をしました。こういう柱が示されれば、
学校も教育の計画の中に取り込むことができると思います。

伊達市長

総合高校の食品・ビジネス科の生徒は一生懸命で、この前も型
が不揃いで本来商品にならない境港サーモンをSDGsで生徒が
捌いて、角屋食品でフライにして、給食で提供したのですが、実
際に総合高校の生徒が余子小に出向いて、ビデオを見ながらお話
してくれました。夏には授業でマグロを解体して、捌いてマグロ
カツにしてもらったりと、高校生も子どもたちのために活躍して
おり、それも境港らしくて良いと思います。市民の方を対象に魚
の捌き方教室の募集をかけたら、10人の定員に30人の応募が
あって、地域の方の関心も高いので、そういう人たちが小学校に
出向いて教えていただくようになると良いと思います。そのほか
いかがでしょうか。

中田委員

まちづくり総合プランの中で「住みたいまち」や「住みやすい
まち」という文言が出るのですが、部署部署で「住みたいまち」
や「住みやすいまち」という目的が違ってくるのですが、学校教
育、社会教育という部分では、「住みたいまち」となると社会教
育が充実したまちということになると思いますが、文言の整合性、
共通性というものが相まって「住みたいまち境港」となるという
認識なのですが、実際の総合計画の中でそれぞれの課が作った
「住みたいまち」という形で分散されてしまうと非常にわかりに
くくなるかと思っています、その辺りはどうなのでしょう。

伊達市長

基本的にまちづくり総合プランが一番上位計画になります。そ
の下に建設部だと都市計画マスタープラン、福祉保健部だと高齢
者の計画等それぞれ個々の計画があるのですが、これを基本とし

て全く違う計画になってはいけないということになりますので、言葉が少し違ったりしても「住みやすい」、「住みたい」、「住んでみたい」という思いはどの計画でもあって、文言は違っても「日本一住みたいまち」という意味合いは同じになっています。

中田委員

部署が違うと情報が入ってこないということもあって、情報のすり合わせが何かできないのかなと思ひまして。

伊達市長

総合計画は必ずすり合わせしています。部署部署の計画ではそこまでのすり合わせはしていませんが、目指す方向は同じなので、整合性がずれないようにしています。

渡邊委員

例えば総合プランの④誰もが安心して元気に暮らす支え愛のまちづくりというところは福祉の部分になると思いますが、今は福祉と教育とで重なる部分が多くありますので、例えば放課後デイ等、そういったものがどこに出てくるのかというところが気になります。

松本教育長

教育の側面から言いますと、そういったものが一つの方針で出てきますとそれを実現するための活動としては当然関係部署との連携が必要になってきます。そういった事業については先ほど説明がありました基本計画の中で位置づけて、具体的な行動を明らかにしていくことになります。なんでもかんでも大綱に盛り込んでしまうと膨大なものになってしまうので、指針として行くべき道を示すところまでを大綱で、どこまで行くという目標値については基本計画の中で年度毎に定めていくということを考えております。

伊達市長

そのほかいかがでしょうか。

十河委員

前回の綱には「幼児教育」という言葉が盛り込まれていたのですが、今回は「幼児」という言葉がなくて、「生涯学習」に含まれるのかもしれませんが。幼保との連携はとても重要だと思いますが、その辺りはいかがですか。

松原局長

先ほど少し触れたように幼児教育との連携は欠かせない部分で、その辺りの支援体制、指導体制という部分で魅力ある学校づくり

のところで盛り込んでいきたいと考えております。

伊達市長

幼保小連携という部分では、障がいのあるお子さんや支援が必要なお子さんについてしっかり連携されていると思いますが、表記されていないと少しわかりにくいかもしれませんね。

渡邊委員

細かいことですが【具体的施策（3）】ふるさと境港への愛着を育む教育や活動の推進の中で「ふるさと」と「郷土」という言葉を使い分けておられ、ひらがなで「ふるさと」とすることでソフトな感じにしているのかなと思ったのですが、あえて「郷土」という言葉を使っている意図はあるのでしょうか。また、【具体的施策（2）】で③「英語教育」の推進とあるのですが、文科省は「外国語教育」という言葉を使っていると思います。あえて「英語」という言葉にしている理由があるのでしょうか。

松原局長

先ず「英語教育」という文言につきましては、前回の標記をそのまま引用させていただいたのですが、言われるとおりに文科省の方では「外国語」という文言を使用していますので修正したいと思います。

渡邊委員

意図的ということではないのですか。

松原局長

特に意図してというわけではないです。

松本教育長

以前は環日本海の交流というところを境港の教育でも意識していたのですが、その時には韓国のお子さんや中国のお子さんとも交流がありました。今実際に韓国のお子さんや中国のお子さんと交流するときに韓国語や中国語で交流するかというところも英語を使われますし、こちらでも英語で会話しますので、境港では英語に特化してということでも良い気はします。

松原局長

「ふるさと」と「郷土」の文言につきましては、整理しておりませんので、県の教育大綱等も参考にさせていただいたのですが、もう少し検討したいと思います。

伊達市長

私からも一点伺いますが、5ページの③地域学校協働活動との連携の中で「学校を核とした地域づくり」という文言があつて、

7ページの【具体的施策（4）】地域学校協働活動の推進のところでも「公民館を第二コーディネーターと位置づけ」とあり、5ページの②公民館の充実のところにも「地域課題の解決やまちづくりの推進」とありますが、具体的に「学校を核とした地域づくり」とはどんな事業をするのかというところのイメージがわからなくて、その辺り説明していただけると理解が深まると思います。

松原局長

学校運営協議会で学校のニーズや目指す子ども像等を協議するのですが、社会総がかりで地域の意見も聞きながら、また、地域の力をお借りするような形で取り組むことになると思います。

柳楽補佐

地域学校協働活動ということになると地域の方々と目指す子ども像を共有、連携協働して活動していくことになるのですが、具体的には学校の教育課程とは異なる学校教育につながるような地域の学びの場ができるということも一つの例となります。例えば外江公民館には中海の環境に精通した専門性のある館長がいますので、通常学校で行っている環境学習に加えて、地域の力をお借りして子どもたちの学習意欲の高まりにつながるような学習ができたら良いなと考えています。

松本課長

二中校区の津波避難訓練が一番わかりやすいと思うのですが、まずは学校運営協議会の委員の皆様が学校と校区にどんな課題があるのかを話し合われて、「こんなことをしないといけない」、「こんなことをしたい」というものを地域学校協働活動として、地域の皆様と一緒に具体的な取り組みにしていくということだと思います。

伊達市長

地域の課題等にみんなで向き合うということは良いことだと思います。

松本課長

特に小学校区だと地域の課題を具体的にしていくというところで公民館の果たす役割はすごく大きくなると考えていますし、実際に出番も多くなると思います。

松本教育長

地域の文化や歴史、産業について地域の方から学ぶ機会を作ること大事ですが、もう一つ大切なことは地域の中で子どもたちが活躍することであって、例えば渡地区、外江地区の落ち葉掃除

のボランティアは、子どもたちのモチベーションを高めるのにすごく有効で、地域の方からほめてもらう、認めてもらうことで子どもたちの自尊感情も高まります。このように地域の中で活躍するような機会を地域の中で作っていただくこともねらっています。もう一方で、子どもたちに関わることで大人が元気になるということもこのねらいになっています。

伊達市長

ケヤキ並木の清掃にすべて出たという子どももいましたので、役立ち感を感じているのだと思います。子どもたちもすごく頑張っていたので。

松本教育長

益田市から講師を招いて講演してもらいましたが、子どものときに地域の中で活躍する経験を持った子は都会に出ても帰ってくるという話がありました。地域づくりの一つの努力として子どもたちの活躍の場を地域の中で作っていくということが大事で、そこは境港市も学んでいきたいと思います。

伊達市長

5ページの①多様な生涯学習機会の提供というところは、具体的にどのような考えがありますか。

松本課長

一番は公民館が中心だと思っていますので、今もたくさん講座を行っています。絶えず工夫をしながら市民ニーズに応えられるものになるようにやっていきたいと思っています。また、来年度予算要求の話にもなるのですが、公民館単位で地域の文化財や歴史をめぐって、子どもたちが地域の歴史や文化財を学ぶような取り組みを始めたいと思っています。

伊達市長

余子公民館も弓ヶ浜に出てシーグラスを探しながらついでにゴミも拾いましょうという取り組みをされていましたが、環境学習にもなるので良い事業だと思います。農業塾もそうですが、ああいう体験があると「ふるさとを大事にしないといけない」、「百姓を頑張らないといけない」という気持ちになると思います。卒業式で「僕は農業します」と言った子もいたので、そういう体験が大事かなと思います。

徳永委員

公民館ともずいぶんつながってきましたよね。

柳樂補佐

公民館がすごく工夫してくださって、コロナ禍でいろいろなことができない時期もあったのですが、逆にそこをチャンスととらえて、「こんなことができるのでは」というところをすごく考えていただいています。そこが学校とうまくすり合っていくと、より良い教育につながっていくと思います。

徳永委員

この前の中浜公民館祭りでは、中浜小学校の執行部の子が「自分たちも公民館祭りに参加したい」と中浜小学校のクイズを作って、自分たちで受付して、ポイントに立って、採点までされていて、とても良かったです。

十河委員

手造りで缶バッジを作成して配っておられて、それも素晴らしいアイデアでした。

徳永委員

公民館祭りでいつも包丁研ぎをしているのですが、新型コロナウイルスの関係で公民館祭りがなかったので、財ノ木町の有志の方が学校に出かけて、子どもたちの前で包丁研ぎを披露したり、地域の方が昼休憩に学校に出かけて、掛け算九九を言えるかチェックしたりと地域の方がすごく学校に入ってきたなと感じます。そうすると子どもも公民館に来るようになって、とても良いことだと感じています。

伊達市長

夏休みの子ども講座は中浜もやっていますよね。

徳永委員

やっていますが、どうしても公民館に行きやすいところに住んでいる子どもになるので、なかなか三軒屋町から歩いて公民館に行く子は少ないと思います。それでも公民館はコロナで人数制限しながらもしっかりやっていると思います。

伊達市長

そのほかいかがでしょうか。

中田委員

【具体的施策（3）】市民交流センター・市民図書館の振興について、図書館の人員的などところで正規職員が少ないと伺っており、現在は県から高橋副館長に来ていただき、いろいろやっておられると思いますがこれも期限があると思います。このような状況下で持続可能な形で図書館運営が円滑に行くような、社会教育の根幹となる部分なので、どのように考えておられるのか伺いた

いです。

伊達市長 図書館の運営スタッフについて、高橋副館長どうですか。

高橋副館長 4月から境港に来させていただいたのですが、CSやボランティア活動でたくさんの方がまちに関わっておられることに感動しており、こういう場所で活動を応援できる図書館というのはものすごく力を発揮できるなと確証しております。市長を始め、教育長や教育委員さん方もたくさん図書館に足を運んでいただき、身近な図書館だと実感しています。先ほどご質問いただいた職員体制についてですが、最初いただいたミッションとして会計年度の職員に私の経験や仕事について伝えるのですが、できることもできないこともあるということを感じています。例えば長いビジョンで運営を考えていくことや外部との折衝、チームづくり、行政と連動して質を保つこと等は個人の資質とかではなく、会計年度の職員では難しいかなと肌で感じ戸惑っているところもあって、図書館がこれからやっていくためにも、正職員の方がいてくれたらと思います。具体的には司書資格のある方が異動なり採用されることを望みますし、贅沢を言えば令和4年度にそういう方がいてくれると一緒に働いて引き継いでいただけるのかなと思います。これは教育委員会だけの話ではなく、財政やまちのことにも関わることなのでみんなで考えていけたらと思います。

伊達市長 今の職員数はどうですか。

高橋副館長 図書館が新しくなることもあって、職員さんを増やしていただいております。現在会計年度職員10人と私と館長になります。来年4月にもう2人採用していただく予定になっています。

伊達市長 現状短時間勤務の方ばかりなので、フルタイムは高橋副館長だけで、高橋副館長が図書館を引っ張っているという状況ですかね。

高橋副館長 高橋が頑張っているとほめていただくのですが、私がやっているのではなくて、私がこれまで正職員として15年間鍛えていただいたもの、社会に鍛えていただいたものを今みなさんに返しているだけなので、個人として云々ではなく、社会からきているものだと考えております。

中田委員

エキスパートという人が常時境港の図書館にも必要だと考える
と高橋副館長のように15年間変わらずということは難しいか
もしれませんが、人が変わっていく状況であってもクオリティを
維持できるような運営方法を考えていただけるとありがたいと思
います。それが人づくり、まちづくりということになってきます
し、境港市の根幹にもなって、人が集まりやすい、住みやすいと
いうことにもつながってくるのかなと思います。

伊達市長

会計年度職員は短時間勤務ではありますが、司書資格を持って
おり、人数も増やして、しっかり高橋副館長のノウハウをいただ
いて、自分たちで運営するよう考えてはいます。今何人増やして
いますか。

渡辺次長

来年度になると、今までより5人増やすこととなります。

伊達市長

人数に余裕を持たせて、研修に出かけたり、スキルアップでき
るような体制にしたところではあります。

高橋副館長

夏に短大生が体験学習に来て図書館司書になりたいと言ってく
れたのですが、そういう方が一生勤められる職場があればという
意味もあって。

十河委員

せっかくハードが上等になるので、ソフトの人的なところ、境
港の拠点でもあるので、今高橋副館長が来られて、司書さんの表
情も明るくなってきました。これを機会に人員増もお願いしたい
と思います。

徳永委員

軸になる職員が必要ですね。

渡邊委員

会計年度職員と正職員では違いますので、長いスパンでの運営
に関わっていくことができるとなるとモチベーションも違ってくる
と思います。みなさん専門性は持っていると思いますが、境港
に帰ってきたときに、あそこの図書館のあの人に会いたいとい
うような司書さんであってほしいと思います。高橋副館長がおられ
るときにしっかり引き継いでいただき、うちには正職員がいます
と自慢できる図書館であってほしいので、よろしくお願ひします。

伊達市長 図書館応援団の人たちも一生懸命ですね、今何人ですか。

高橋副館長 170人です。

伊達市長 その人たちが拠点づくりに一生懸命力を貸していただけるので、司書の方とボランティアの方としっかり連携して、良い図書館にしていきたいと思います。そこに書いてあるように「境港市を担う人を育むまちづくりの拠点として」、高橋さんのような人を育てるのですかね。

松本教育長 高橋副館長が来られてから、市民の方も図書館のことを気にかけていただくようになり、今度できる図書館にもすごく期待をされていると感じていますので、高橋副館長が帰って、元に戻ったということではいけないと強く感じています。

高橋副館長 個人ではなくてシステムが必要で、私がずっとここで働いても途中でやる気がなくなれば続きません。どこかでそれが保たれるような仕組みづくりが必要だと思います。

伊達市長 ほかにはいかがでしょうか。事務局から何かありますか。

松原局長 今日いただいた意見を基に2月に最終案を提案させていただき、確認していただけたらと考えております。

伊達市長 それでは、本日本日予定しておりました協議・調整事項は以上となります。ありがとうございました。